

見守り

地域が抱える
課題

地域見守りの衰退

共働き世帯の増加や通学保護員の高齢化等にもない、登下校時を中心とした**児童の安全確保**の仕組みが今後成り立たなくなっていく懸念がある。
一人世帯、老々介護世帯、認知症の方の増加等、**高齢世帯**を中心とした見守りニーズの増大。

登下校時を中心とした児童、認知症等の方、高齢の方など様々な対象に対する安全、および保護者・家族など見守る側が地域で安心して暮らせるような仕組みの検討・構築が必要。

老年人口割合増加

鹿児島全体の人口は減少傾向にある中、老年人口割合は増加傾向。(鹿児島県、2023)

- ・2045年には65歳以上の方が総人口に占める割合が2.5人に1人
- ・**生産年齢人口1.2人で1人の老年人口**を支える計算。(鹿児島市の場合1.5人で1人)

今後、介護に対するニーズがますます高まり、介護職員不足等様々な課題が予想される中、健康寿命を延ばすための取組(例：早期フレイル検知、活動量増加に向けた施策)、各種取組参加に向けた動機付けなど仕組みづくりが必要。

プロジェクトテーマ
(R6事業提案)

3. デジタルを活用した**地域の見守り**
(子ども・高齢者など)

4. デジタルを活用した**介護・フレイル予防**